

### 【竹下千晴先生】

コンクールの時は皆さんのキラキラした演奏にとっても感動しました。音楽にはその人の全てが表れるといいますが、本番に向けて先生やご家族と一生懸命努力されたことが表情や演奏に表れていたのだと思います。舞台上での様々な経験(トラブルや失敗も含めて)は必ずや自分自身を成長させてくれます。本番を経験する毎に精神的にも強くなっている事を私達は知っています。是非 10 年表彰を目指して頑張ってください。さて、日頃は狭い空間で練習されていると思いますが広いホールで演奏する時は、残響や音の広がり等を考えて何時もより更に集中して音を聴く(聞くではなく)、ペダルも踏み込む深さや使用を控えたり、表情は少しオーバーなくらい豊かに表現しても客席から観ると丁度いいのです。ホールでしか学べない経験をこのコンクールを通して沢山知ってください。これからも音楽する喜びを感じながら努力を続けて欲しいです。必ずや音楽していて良かった~と思う日が訪れます。又、お会いできる事を願って..。

### 【谷脇裕子先生】

今回演奏されたみなさん、素敵な演奏を聴かせてくださってありがとうございました。それぞれに忙しい毎日の中、練習を積み重ねてこられたことがまずは素晴らしいことだと思います。

その努力がさらに楽しい演奏につながるためのお手伝いができるよう、みなさんの演奏を聴いて感じたことをお伝えします。

みなさんしっかりと曲を仕上げ、日頃の学びの成果が表れていました。そして自分の弾く曲がどのようなことを表しているのかも、感じ取って弾いている方が多かったように思います。

ただ演奏というのは、気持ちを込めて弾くだけではなく、その気持ちを音色、音量やフレーズの歌い方、テンポなど様々な要素を変化させることで表現しなければ聴く人には伝わりません。その表現するための技術(指が正確に速く動くだけではなく)をもう少し高めていってほしいと思いました。

どんな音色がそのフレーズにふさわしいのか、どんな抑揚で歌ってどこで息をすると美しい歌に聴こえるのか、自分が思っている表現がきちんと音に表れているのか、そのようなことを意識して自分の音をしっかりと聴いていってください。

また小学校ぐらいまでは、まだ成長途中の子供の体です。ピアノも全身を使って音を出しますから、大人のように音量が出ないのは当たり前です。

その頃に、表現したいばかりにあまりに大きい音を出そうとすると、必要ない体の動きまで覚えてしまうこともあります。単純に大きな音ではなく、どうやったらピアノを響かせられるかを学んでいってほしいと思います。

そして今の時代に一番難しいことが、クラシック音楽を聴くということかもしれません。みなさんピアノを弾くのは大好きでも、忙しい中でゆっくり音楽を聴くのはなかなか機会がないのではないのでしょうか？

ですが、たくさんいろいろな音楽をインプットしていかないと、音楽を理解して表現するエネルギーも出てこないのではないかと思います。できるだけ機会を作って、ピアノ曲だけではなくいろいろな楽器、編成の音楽を聴いてみてください。

そして音楽だけでなく、本を読んだり、映画や絵画、美しい風景を見たり、そんな自分の感性を動かす体験をたくさん重ねていっていただきたいです。そうやって自分の心と、ピアノを好きな気持ちを育てていけると、どんどん素敵な表現ができるようになっていくと、私は思っています。

またいつか、さらに成長されたみなさんの演奏を聴ける機会を楽しみにしています。

【秋田悠一郎先生】

4/11(土)、12(日)と2日間、コンクールの審査を勤めさせていただきました。

改めて皆様、お疲れ様でした。ご自身なりに満足の行く演奏が出来ましたでしょうか。

コンクールと言うのはレギュレーションがあり、その中で得点を付けて順位が決まると言うシステムですが、同じ部門、年齢のお子さん同士でも、育つ速度や得意分野が全く異なるのが当たり前です。コンクールを受けられる際には、常に人と比べる前に、その子自身が何を目標にして、どれだけ達成できたかを先生や親御さんがしっかりと認めてあげて下さって欲しいと願っております。

幼児～小学低学年までは、本来順位などはなく、単純にステージで音楽を奏でる喜びと楽しさを知って欲しい年頃ですので、心としては全員に100点満点を上げたい気持ちです。

高学年以上になると思春期など心も少しずつ大人になり始め、弾く曲もだんだんと難しくなってきます。

その時に是非忘れないでいただきたいのが、音楽は、誰かが何かを想ったり悩んだり考えたりして作ったもので、決して神様が勝手に作られて出来たものではないという事です。楽譜には私たちにとっての共通言語(小節、音符、記号など)が書かれていますが、あくまでそれは私たちが演奏しやすいようにヒントをくれている「宝の地図」の様なもので、読み方がわからないと正しく宝を見付けられません。理解をするためには、まずそれを書いた人の事、つまり作曲者について少しは興味を持つてみるのも良いですよ。例えばシューベルトと言う作曲家は「歌曲の王」と言われています。これを知ったら、彼の作った歌をいくつか聴いてみたら、その真骨頂を垣間見ることが出来るかもしれません。

また、理解する為には、例えば沢山の本を読んだり映画を見たり、絵画を見たり景色を見たり、沢山の事を経験してみると自分自身が共感できる事が増えるかもしれません。

もちろんピアノが大好きで、ピアノを弾きたい気持ちが一番ですので、それを大切にしてください。

その上で、ふと考えてみてください。そう言えば自分の弾いている曲は、誰がどんな時に、どんな気持ちで書いた曲なのかな、と。そうして弾いた演奏は、きつとただ書いてあることをなぞる演奏ではなく、何かその子なりの表現が伝わってくるのではないかと思います。

この日に向けて、沢山練習したご本人、指導をなされた先生方、支えらたご家族、本当におめでとうございました。素晴らしい2日間でした。また皆さんの演奏をお聴き出来る日を、今から楽しみにしております。